

会長：平子玲子 札幌市西区琴似4条6丁目5-8-601 (TEL643-3491) 発行人：安高誠吾 Email: syasutaka@bear.odn.ne.jp

幹事会報告：3月12日（水）Zoom会議

出席：大橋、菊地、平子、高田、中島、安高

- 春の雪山登山：磐溪山、3月16日（日）、参加者4名（伊澤、岡崎、菊地、鈴木）
 - 番外例会：3月27日（木）、国際スキー場、参加者3名（菊地、高田、中島）
 - 春の残雪登山：4月13日（日）、藻岩山旭山公園コース、参加者7名（大橋、岡崎、菊地、鈴木、平子、高田、安高）
 - 第37回総会：5月31日（土）5時より、居酒屋「鳥太郎」にて開催予定
 - 登山：6月に実施予定、磐溪山または手稲山、後日詳細を検討する。
- 次回幹事会：5月14日（水） 18:00より Zoom会議（事前に議案書案を会長にメールで送ること）

春の雪山登山 ～ 磐溪山

伊澤 睦子

3月16日、日曜日。風もなく穏やかな山歩きでした。以外にも新雪が積もり駐車場の除雪で一汗かいて登ることになりました。磐溪山で早飯をして三菱山経由で下山しました。雪山登山初体験の鈴木さん「こんなに歩いたのは初めて」とのこと。頑張りましたね。キュルルとなくシマエナガに会えて少しワクワクした1日でした。



番外例会報告～ 国際スキー場

中島 順子

参加者は、菊地さん、高田さんと中島の3人。宮の森在住の高田さんを迎えに行き、南区廻りで藤野在住の菊地さんを迎えに行きました。ステップクラブに長年在籍の菊地さんは、他の人の車に今まで同乗した事はなく、初めてと聞いて少々緊張しながら一路札幌国際へ！当日は、シニアデーなのでリーズナブルなリフト券を購入できてまずはリフトで上がると、江別フリーダムの方々も滑走開始でした。他にも、北のメルヘンやスカディーの人たちもいました。

雪質は、3月末にしては、上々。下の方は、たまにカリッと感じる所もありましたが、混雑なしのゲレンデで気分も良好。3人でちょっとフォーメーションの真似事（？）もトライ。昼食後も滑りましたが早めに切り上げて、菊地さんのご厚意で、お宅にお邪魔。奥様がいらしゃいました。菊地さんが、珈琲豆を挽いてサイフォンで煎れて下さり、ケーキやお菓子の贅沢なおやつタイム。今シーズン最後のスキーとなった私は、大満足の1日でした。（2面につづく）



ただ1つ、マナーを考えさせられる問題がありました。リフトを降りてスタートしようとした時に、後ろにいたボードの若者が、菊地さんの足元にボードを引っかけて、菊地さんは転倒！私は自分でも驚く声で、「こらっ！待て、バカー」と。ふたシーズン前に私もぶつけられて転倒したことがあります。相手は、「大丈夫ですか」と声かけたものの直ぐに行ってしまいました。こんな時は、相手の安否を確認する事が、必要と思いました。そんな思いが、咄嗟にそんな言葉に！今後、自分が逆の立場になったら、気をつけたい事案です。

春の藻岩山残雪登山

大橋 多津

朝からスッキリしない曇り空（微かに雨混じり）、やや風が強いのが気がかりですが、取り敢えず出発することに。旭山公園～藻岩山コースは私のお気に入り。コロナ禍前は毎年夏山トレーニングでソロ登山、その後🐻（熊）さん騒動もあり、すっかりご無沙汰していました。そんな事もあって、苦手な（!?）雪解け時期にもかかわらず楽しみにしていました。このコースは慈啓会コースと合流するまで、アップダウンが続く稜線歩き、途中小林峠や北ノ沢コースとも合流するので🐻（熊）さん情報も多いところ。が...7人でガヤガヤ、鈴の音も騒がしく!?歩けば不安は消えました？歩き始めて間もなく登山道にも残雪が出現、高度が上がるにつれて凍結したところも...ポールよりはストック、軽アイゼンがあればなあ...と後悔しきり。アイゼン装着の高田さんは余裕の歩きでしたね。結構な急斜面を登りながら、ここを下る不安が頭をよぎります。それでも強風の中雨に当たらず、予定タイムで無事頂上へ。風を避けて、ゆっくり休憩室でランチタイム。帰りのエネルギーを満タンにして、いざ残雪の下りへ。少し柔らかくなった雪道を、踵でしっかり踏みしめながら、一步一步慎重に！緊張の連続！でしたが、誰も転ばず（雪解けの泥濘みも多く）ドロだらけにもならず無事下山しました。皆さん、お疲れ様でした。楽しい時間をありがとうございます。



琴似ステップ第37回総会&懇親会

日時：5月31日（土）午後5時より

会場：居酒屋「鳥太郎」琴似本店（予定） 西区琴似1条2丁目5-6 琴似一番館ビル（Tel：011-642-9779）

会費：4,000円 ※出欠を4日前までに活動ドット com で知らせるか、中島さんへ連絡して下さい。

編集後記：ゴールデンウィークも間近。スキーができるのも後わずか。桜の季節です。その桜の花もあのMAGA男が乱発する関税の嵐に吹き散らされそうです。今号はスペースが余りましたので少し書きます。フィリップ・ロスの『プロット・アゲンスト・アメリカ』をご存知ですか？事実と想像を交えた小説です。1940年の選挙で、大西洋を飛行機で横断した英雄リンドバークがなんとルーズベルトを破って大統領になり、アメリカに不安と混乱をもたらすというお話です。この英雄はヒットラーの友人で、ナチスから勲章も貰い、反共・反ユダヤ主義者です（これは事実）。彼が大統領になるとアメリカでユダヤ人への激しい迫害が始まり、第二次大戦ではアメリカは日、独、伊と組んでソ連と戦うことになります。この一連の過程が作者自身である7歳のロス少年の眼を通して語られます（作者はニュージャージー州のユダヤ人居住区育ち）。ロス一家にも迫害の危機が迫り、果たしてその結末は・・・？ 2004年に書かれたこの小説は実に予言的であるように感じられます。読んでみるとリンドバークとあの男の自己顕示欲と独断振りがどうしても重なって見えてきます（外見と歳はだいぶ違い、リンドバークはスマートでハンサムな中年）。それはともかく、最近読んだお勧めの一冊です。柴田元幸訳で集英社文庫から出ています。ロス少年のみずみずしい感性と、危機に立ち向かう彼の両親の毅然とした態度がとても感動的でした。ご一読を。（安ベエ）